

三島 一夫 清水 潔 平松 門次
 森 一光 森竹 重雄 岩井 勇
 北 恩四郎 茂木 文藏 青木 實
 松岡 秀一 眞壁 恭男 野波福三郎
 阿部 貞一 鈴木政次郎 渡邊 正守
 大河原義衛 以上

編輯後記

▽瞭解に基く本學當局の壓迫干渉にも拘はらず我等の立教大學經濟學會は、一般學生大衆の熱烈なる支持に依つて組織を確立することが出来た。

▽今や學園を席捲する澎湃たる學究熱を見よ。れむりつゝあつた學生大衆も、現資本主義社會の諸矛盾、手近かには大學卒業生の需要供給の破綻に依つて、俄然目を醒ました。そして現實の諸相の正しき分拆に依つて或る結論を得ようとしてゐる。ブルジョア的アンシーに、最早、もだへることを止めるであらう。

△「商學論叢」「史苑」「立教文學」「英米文學」等々の驍尾に附して本誌は創刊の運びになつた。投稿原稿十三篇中より八篇を採るこゝとが出来た。皆、相當の力作である。本誌に載らなかつたものゝ中にもよいものがあ

つたがザヤナリズムを加味した編輯の都合上割愛した。右の原稿を左に記して筆者の御諒解を得たい。寺田元鬼「資本主義の流れ」永坂正夫「偶感」日野勝秋「中世紀以後の農民狀態に就いて」永村宣平「一夫一婦制」三橋二郎「經濟學研究について」▽通讀して貰へば分る。本誌が何れ程充實してゐるかを。大體集つた原稿は、資本主義現段階は資本主義的生産方法に内包する諸矛盾と階級××の××に依る必然的プロレタリアート××を理論づけてゐるものが多かつた。編輯者が故意にこうした原稿を採つたのではなく、こうしたものが投稿された社會的原因を知つてほしい。

▽次號は、六月乃至七月頃發行の豫定で、若しこの豫定通り事が運ぶとすれば原稿締切は發行の一ヶ月前である。經濟學科學生諸君の勇敢なる投稿を創刊號の發刊に當つて前もつてお願ひしておく。

▽本誌のよしあしは、經濟科のバロメータとして表はれる。この點でも、全經濟學科學生諸君は本誌を、本學會を飽くまで支持せねばならない。

▽終りにこの三月卒業の經濟學科三年の諸氏の御健康を祈り且つ御聲援を乞ふ。

(松延、濱寺)

昭和五年二月二十日印刷納本
 昭和五年二月廿五日發行

創刊號

(定價二十錢)

編輯兼發行人 東京府西巢鴨町池袋立教大學内
 寺 田 元 鬼

印刷人 東京市小石川區茗荷谷町九六
 小 谷 實

印刷所 東京市小石川區茗荷谷町九六
 太 陽 舍

發行所 東京府西巢鴨町池袋立教大學内
 立教大學經濟學會
 電話大塚四〇四番